

文庫あれこれ◆寒くなりましたね。おまけに今日(19日)は黒雲が海面近くまで垂れこめ、高原駅に着いた時には、雨が降り出していました。

◆それでも、今年になって文庫の周りには、新しい持ち主の家ができ、それぞれに趣向を凝らしたお庭や家周りで、眺めさせてもらう楽しみがふえました。◆白内障の手術をしました。スタッフのNさんが、眼鏡がなくても明るくなってよ〜く見えるの、と言ってらっしゃったのに、私は想定外?! ひどい乱視が改善されて、確かに楕円形だった月が〇く見え、パソコンも眼鏡なしでOKになりましたが、近視の眼鏡は必要のようです。耳の補聴器もまだ不安定だし、と考えているうちに、何だか鬱々としてきます。年の瀬だし、特定秘密保護法はあんなに反対されても可決してしまったし…。◆小学生のころ社会の時間に、先生から、ソビエトでは、夜、ドアがノックされると、そこに住む人が連れていかれて帰ってこないんだよ、と聞いてすごく怖かった記憶があります。スターリン施政のころ? ◆仲間同士で疑心暗鬼の世の中になってしまうなんて絶対嫌ですね。◆『スターリンの鼻が落ちた』という子どもの本があります。大人の方にも読み応えあります。ぜひ一読を。◆健康であるためには痩せねばと体操を始めたり歩いたりしているのですが、なかなか思うように減量できません。健康な身体に健全なる精神は宿る、でしたっけ? 来年は、心して頑張るぞ。落ち着いて読書することも年度計画に入れます!! ◆今朝は冬晴れ! そして、大島が火の玉のような太陽の光をたたえた鏡の海に、穏やかに雄姿を浮かべています(21日)。まだ、10日ありますが、みなさん、よいお年を! (西村)

沙羅の樹文庫 大空高原7-122  
0557-51-3737

No88 2013年12月号

## 沙羅の樹文庫だより



岩波書店刊 2012

### ❖ 来年の開館スケジュール ❖

- ◆1月は通常 18日(土) 19日(日)
- ◆2月は通常 15日(土) 16日(日)
- ◆3月は通常 15日(土) 16日(日)
- ◆4月は通常 19日(土) 20日(日)
- ◆5月はロング 16日(金)~21日(水)
- ※アートフェスティバル参加
- ◆6月は通常 14日(土) 15日(日)

文庫の時間:

土曜日は午後2時~5時

日曜日は午前10時~午後3時

♥毎月開館日(日)「子どものための小さなおはなし会(午前10:30~11:00)」があります♥

❖おはなし沙羅の勉強会❖

毎月開館日(土) 11:00~13:00



数年前の文庫クリスマス風景

♥みんな、大きくなりました♥

へろへろとワントンすするクリスマス

(秋元不死男 句)

実朝の歌ちらと見ゆ日記買ふ。(山口青都 句)

憂きことを海月に語る海鼠哉(黒柳召波 句)

この日曜は冬至。冬至を一陽来復とも言うそうです。クリスマスも冬至と縁のあるそうなの?

年の瀬に向かうこのころの句です。

(『七十二の季節と句をたのしむ歳時記』より)

人生、どうってことない、と思いながらも、  
新しい年に希望をもって、歩いていきましょう!

## 2013年12月に読んだ本についての感想

2013年12月17日 By 森林浴

『沈むフランス』 松家 仁之著 新潮社刊  
2013年9月第1刷

この人はこの本が発表二作目だからまあ新人ではあるが、永年新潮社で編集をしていた人（後で出てくる「丸谷オーの「別れの挨拶」で丸谷氏の書いたものの編集をしていた人となっている）物書きの世界の表も裏も熟知しており、その意味では新人というわけではない。

この本の題名を新聞の広告で見つけてフランスという言葉に興味を覚え文庫で購入して頂いたのだが、これはなんと水力発電所のフランス・タービンつまり水車の名称なのですね。ヒロインの女性の新しい「男」が水力発電所の管理を任された中年男で、その水力発電所が最後に異常な豪雨で水没する、だから沈むフランス。

正直この小説は恋愛小説としてはなにか物足りない。はっきり言ってここにはほとんど「切実さ」みたいなものがないからだ。男と別れて東京から北海道に来た自由度の高い女と、離婚訴訟が進まないまま一人で優雅に過ごす男がごく自然にくっつく。男の方は別の人妻とも情事があり、なにか「切実さ」のない男女の交渉が綺麗な自然の田舎で展開。

（「切実さ」なんて言っちゃって、私がアリス・マンローを読みすぎたのかな。）

『わりなき恋』 岸 恵子著 幻冬舎社刊  
2013年3月第1刷

これは私小説なのだろうか、というのがまず頭に浮

かんだ疑問だったが、まあこれはほとんど岸恵子（1932年生まれだから今81歳）自身の「告白」であろう。それにしても84頁からの情交の場面には驚いた。70歳の女が永年の性の空白の後で生理的に男と交われるのか。岸恵子という人は本当に開けっぴろげで率直。

いずれにしろ、この小説は長すぎる。始まりで70歳だった主役の女はエピローグではもう死んでいて、相手の男は小説の始まりで50歳台の終わりごろだったが小説の終わりには75歳になっている。つまり15年以上に亘る恋物語。

（ネット上では、相手の男は、トヨタ自動車グループ会社の役員である岩月伸郎氏一派手な女性関係が有名という推測が公開されていて、ちょっと興奮め。）

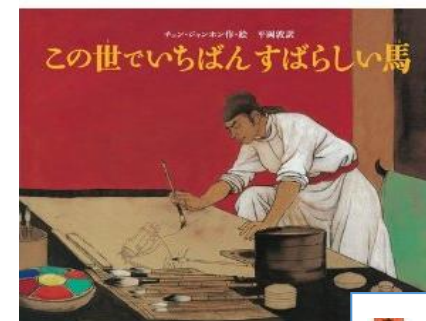
『別れの挨拶』 丸谷 オー著 集英社刊  
2013年10月第1刷

著者の丸谷氏は昨年10月に亡くなった。本の題名は出版社が後で時宜よくつけたものか本人がつけたものか、著者の最後の文集の出版。後書きによると、丸谷氏自身編集にも手を染めていたが、それも上手だった由。

名前のとりの才人で驚くべき博識、書く範囲や内容は多種多彩。そして「文壇」と言われる日本の文学界の偏狭さ（私小説と小林秀雄などの文芸評論）に異論を唱える。

また、その文章は彼の信念に基づいた「歴史的かなづかひ」であって、我々が今使い慣れた「新仮名づかひ」でないことに留意しなければならない。（づかひでなく、「づかひ」であること。実はいまのパソコンだと、「づかひ」と入力すると「ひ」に赤の下線一

警告一がついてしまうんですが。



力強い筆致。  
絵の中から  
飛び出して、  
疾駆する馬。  
見ごたえある  
絵と物語。



『野うまになった娘』  
（今月の新刊案内に掲載）  
絵が、絵の色彩が美しい。

来年は馬(午)の年  
文庫にある馬の本をちょっとご紹介

『運命の馬ダークリング』（掛川恭子訳 岩波書店 1994）

『ハロウィーンの魔法』（ルーマ・ゴッテン作 渡辺南都子成社）

『駆けぬけて、テッサ!』（K.M.ペイトン作／山内智恵子訳 徳間書店 2003）

『戦火の馬』（マイケル・モーパーゴ著 佐藤見果夢訳 評論社 2012）

『この世でいちばんすばらしい馬』（チェンジャンホン作 徳間書店）※絵本

★高学年向きだけど、読んでほしい本ばかり



## 12月に文庫に新しく入った子どもの本

絵本 みんな今年の新刊です。

『おまめちゃん』『ぶちとまとちゃん』『じゃがいもちゃん』(ひろかわさえこ作 偕成社)『どんぐりころちゃん』(みなみじゅんこ作 アリス館)『ぞうはどこへもいかない』(五味太郎作 偕成社)『でんしゃがきた』(竹下文子作 鈴木まもる絵 偕成社)『ちいさなともだち』(片山令子さく かわかみたかこえ そうえん社)『ぶたがとぶ』(佐々木マキ作 絵本館)『ぼんこちゃんポン!』(乾栄里子作 西村敏雄絵 偕成社)『あたいえでしたことあるよ』(角野栄子作 かべやふよう絵 あすなる書房)『さるくにぴったりなおうち』(おおはしえみこ作 村田エミコ絵 すずき出版)『海のむこう』(土山優文 小泉るみ子絵 新日本出版社)

『ピムとポムふたごがきた』(バウハウス作 ヴェステンドルプ絵 偕成社)『魔女のウィニー』(ヴァレリー・トーマス作 コーキー・ポール絵 静山社)『UFOのつくりかた』(中垣ゆたか作 偕成社)『ゲーテンベルグのふしぎな機械』(ジェイムズ・ランフォード作 千葉茂樹訳 あすなる書房)

クリスマス絵本:『クリスマスをみにいったヤシの木』(シルヴァンデール文 プシエ絵 徳間書店)『サンタさんのトナカイ』(ジャン・ブレッド作絵 徳間書店)『ベチューニアのクリスマス』(デュボアサン作絵 復刊ドットコム)『しずかなクリスマスのほん』(アンダーウッド文 リウスカ絵 光村教育図書)

### 読み物

『月までサイクリング』(バルヴェラ作 文研出版)『少年弁護士セオの事件簿2』(ジョン・グリシャム作 岩崎書店)『もしかしてぼくは』(内田麟太郎作 すずき出版)『おならゴリラ』(もりやしげやす作 偕成社)

♥広瀬恒子さんにたくさんいただきました。

絵本 ◆文庫で購入した本です。ちょっと出版年は古いけど読み継いでほしいものも新たに入れました。

『そらとぶアヒル 改訂版』(内田麟太郎ぶん 長新太え 童心社 2013)『パン屋のこびととハリネズミ』(シュミット作 徳間書店 2013)『おかあさんの顔』(ロディ・ドイル文 フレヤ・ブラックウッド絵 石津ひろ志訳 フレーベル館 2013)『犬になった王子—チベットの民話』(君島久子文 後藤仁絵 岩波書店 2013)

『やまこえ のこえ かわこえて』(こいでやすこさく 福音館書店)『サンタさんからきたてがみ』(たんのゆきこさく 垂石真子え 福音館書店)『しんせつなともだち』(ホウ・イーチュン作 君島久子訳 村山知義絵 福音館書店)※3冊こどものとも絵本です。

『さんびきのこねずみとガラスのほし』(たかおゆうこ作 絵 徳間書店 2013)『ゆきがやんだら』(酒井駒子さく 学研)※クリスマスの夜に!

『あたまをなくしたおとこ』(ビショップぶん マックロスキーえ もりうちすみこやく 瑞雲舎 2011)

『ジュマンジ』(オールズバーグさく へんみまさなおやく ほるぷ出版)『ザスーラ』(オールズバーグさく かねはらみずひとやく ほるぷ出版)『西風号の遭難』(オールズバーグ絵と文 村上春樹訳 河出書房新社)

『ふるやのもり』(鈴木サツ語り 掘越千秋絵 瑞雲舎)『ふるやのもり』(瀬田貞二再話 田島征三絵 福音館書店こどものとも絵本) ※読み比べてみてね。

『野うまになったむすめ』(ポール・ゴフルさく じんぐうてるおやく ほるぷ出版) ※コルデコット賞を受賞。

### 読み物

『ガフルの勇者たち3~6』(キャスリン・ラスキー作 メディアファクトリー)※request 『ヘンリーくんと新聞配達』(クリアー作 学研 2013)『オズの小さな物語』(ライマン・フランク・ボーム作 復刊ドットコム)『星新一すこしふしぎ傑作選』(瀬名秀明選 集英社 2013)

詩『谷川俊太郎少年詩集 どきん』(和田誠絵 理論社)

## 12月に文庫に新しく入った大人の本

### 読み物

『ほろびぬ姫』(井上荒野著 新潮社 2013) 『昭和の犬』(姫野カオルコ著 幻冬舎 2013) 『なぎさ』(山本文緒著 角川書店 2013) 『冬虫夏草』(梨木香歩著 新潮社 2013) 『北天の馬たち』(貫井徳郎著 角川書店 2013) ※request 『ノボさん』(伊集院静著 講談社 2013) 『イン・ザ・ヘヴン』(新井素子著 新潮社 2013) 『幻夏』(太田愛著 角川書店 2013) 『だから荒野』(桐野夏生著 毎日新聞社 2013)

### 時代の

『たからもの』(北原亞以子著 講談社 2013)

『はなとゆめ』(沖方丁著 角川書店 2013)

### 海外フィクション

『あなたはまだ何も知らない』(ヴィルジニー・ムザ著 中央公論新社) 『11/2 上』(ステイーヴン・キング著 文藝春秋 2013) 『罪人を召し出せ』(ヒラリー・マンテル著 早川書房) 『いつも手遅れ』(アントニオ・タブッキ著 2013)

### エッセイ・ノンフィクション

『戦後歷程』(品川正治著 岩波書店 2013)

『晩年様式集』(大江健三郎著 講談社 2013)

『食卓の愉しみについて』(中村稔著 青土社 2013)

『在中日本人 108 人のそれでも私たちが中国に住む理由』(在中日本人 108 人プロジェクト編 阪急コミュニケーションズ 2013) 『未来国家ブータン』(高野秀行著 集英社 2012) 『生き心地の良い町』(岡檀著 講談社 2013) 『魂の還る処』(谷川健一著 アーツアンドクラフツ 2013)

『立花隆の書棚』(中央公論新社 2013) ※request

『老人漂流社会』(NHK スペシャル取材班編 主婦と生活社 2013)※request 『アサギマダラはなぜ海を渡るのか?』(栗田昌裕著 PHP 研究所 2013) ※request

## 新書・文庫

『**里山資本主義**』(藻谷浩介著 角川書店 2013) ※request  
『**この世に命を授かりもうして**』(酒井雄哉著 幻冬舎ルネッサンス新書 2013)

『**悪名の棺 笹川良一伝**』(工藤美代子著 幻冬舎文庫 2013) ※request

『**唱歌・童話ものがたり**』(読売新聞文化部編 岩波書店 2013)

『**賞の柩**』(帚木蓬生著 集英社 2013) ※request  
『**がんこ長屋**』(池波正太郎ほか著 新潮文庫 2013)  
『**猫がドアをノックする**』(岡野薫子著 草思社文庫 2013)

『**老人と海**』(ヘミングウェイ著 新潮文庫) ※複本『**移動祝祭日**』(ヘミングウェイ著 高見浩訳 新潮文庫) ※request  
『**インスブルック葬送曲**』(アヴァンツィーニ著 扶桑社ミステリー文庫 2013) ※request

『**溝口健二の世界**』(佐藤忠男著 平凡社ライブラリー)  
『**昭和怪優伝**』(鹿島茂著 中高文庫 2013)

★来年1月新刊として出す予定でしたが、今月出します。(来月は少なくなります)★

『**インフェルノ 上・下**』(ダン・ブラウン著 角川書店 2013) 『**誰よりも狙われた男**』(ジョン・ル・カシ著 早川書房 2013) 『**革命の季節**』(重信房子著 幻冬舎 2013) ※以上3冊 request  
『**そして、メディアは日本を戦争に導いた**』(半藤一利、保坂正康著 東洋経済新報社 2013) 『**読書脳**』(立花隆著 文藝春秋 2013) 『**世界一素朴な質問、宇宙一美しい答え**』(ジェンマ・エルウィン・ハリス編 河出書房新社 2013) ※ぜひ、親子で! 『**近代の呪い**』(渡辺京二著 平凡社新書 2013) ※request

『**ヒトに問う**』(倉本聰著 双葉社 2013) 『**茗荷谷の猫**』(木内昇著 文春文庫 2011) ※以上2冊Nさん寄贈

## 以下の本、寄贈いただきました。

ダブルMNさん、KMさんありがとうございました。

文庫本

『**富士日記 上・中・下**』『**日日雑記**』(武田百合子著 中公文庫) 『**春の皇后 小説・明治天皇と昭憲さま**』(出雲井晶著 中公文庫) 『**寂しさの極みの地**』(曾野綾子著 中公文庫) 『**不安な童話**』(恩田陸著 祥伝社文庫) 『**神童**』(萩生田宏治著 双葉文庫) 『**機関車先生**』(伊集院静著 文春文庫) 『**都の子**』(江國香織著 集英社文庫) 『**春の野原**』(銀色夏生著 角川文庫) 『**猫の橋口さん**』(水無月さらら著 中経文庫)

『**どこか古典派**』『**コンクールでお会いしましょう**』(中村紘子著 中公文庫)

『**午後は女王陛下の紅茶を**』(出口保夫著 中公文庫)  
『**四季の家庭料理**』(寛仁親王妃信子著 光文社知恵の森文庫) 『**ワインの基本**』(林暁男著 光文社文庫)  
『**不味い!**』(小泉武夫著 新潮文庫)

『**外国遠足日記帖**』(岸田今日子著 文春文庫) 『**ドバイの砂漠から**』(銀色夏生著 角川文庫) 『**ルーカス・クラナッハの飼い主は旅行が好き**』(山本容子著 中公文庫)

『**ワーズワースの庭で**』(松山猛著&フジテレビ著 扶桑社文庫)

『**財布のつぶやき**』(群ようこ著 角川文庫) 『**世界装飾図**』(オーギュスト・ラシネ著 マールカラー文庫)

『**トットの欠落帖**』(黒柳徹子著 新潮文庫)  
『**石原家の人びと**』(石原良純著 新潮文庫)

『**世界から感謝の手紙が届く会社**』(千葉望著 新潮文庫)  
『**生かされて**』(イマキュレー・イリバギザ/スティーヴ・アーウィン著 PHP 文庫) ※単行本でも同著者の作品が、『**ゆるしへの道**』(イマキュレー・イリバギザ/スティーヴ・アーウィン著 女子パウロ会)

単行本

『**とかげ**』(吉本ばなな著 新潮社) 『**いつか記憶からこぼれおちるとしても**』(江國香織著 朝日新聞社)

『**完璧な病室**』(小川洋子著 福武書店) 『**町長選挙**』(奥田英朗著 文藝春秋) 『**うつしろのゆめ(天国の本屋2)**』(松久淳+田中渉著 木楽舎)

『**庭仕事の愉しみ**』(ヘルマン・ヘッセ著 草思社)  
『**わたしの脇役人生**』(沢村貞子著 新潮社) 『**老嬢は今日も上機嫌**』(吉行和子著 新潮社) 『**忙中有閑**

『**ときには旅**』(玉村豊男著 中央公論社)

『**ラストホープ福島孝徳**』(徳間書店取材班編 徳間書店)  
『**プラタナスの木陰で**』(鮫島有美子著 時事通信社)

『**ぼくはいかにして指揮者になったのか**』(佐渡裕著 はまの出版) 『**猫はなぜ生きる**』(ディーン・リップウッド著 幻冬舎)

『**空の青海の碧**』(早坂真紀著 幻冬舎) 『**バレリーナを生きる草刈民代のすべて**』(ダンスマガジン編 新書館)

『**English essays 花と雑貨のイギリスだより**』(主婦の友社)

★文庫の棚は、あれもこれもと思っているうちに、さまざまな本が雑居家族のように、押し合いへし合いしていますが、まとまっていた本をみると、個々人がご自分の好みに合わせていい感じに集められた棚で、本がゆったり呼吸していたのを思い浮かべることができます。感謝。

